

1

なつとなかよし(しぜんとなかよし)

生活科



授業の実際

8時間目 / 14時間

<導入>

前時の感想カードを基に振り返り、学習課題を設定する。



もっと大きく作りたいね

小さいのをたくさん作ったら楽しそう。

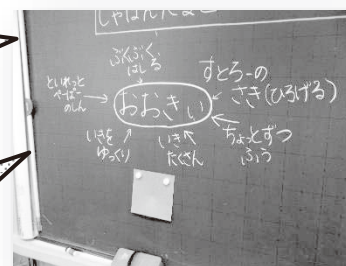
💡 シャボン玉と仲良くなれましたか？

<展開>

シャボン玉と、もっと仲良くなろう。

息を強く吹くと、大きさが変わると思うよ。

液を少しだけつけたら、小さいのが作れたよ。



やってみよう！



ゆっくり吹くと、大きくなった！

ストローの先を、変えてみたよ。



太さを変えたら、大きさも変わったよ。

<終末>

💡 みんなの考えたやり方はうまくいきましたか？
💡 新しいやり方は見付けられましたか？

- 息の吹き方で大きさが変わった。
- 一回吹いて作ってから、もう一回吹くとくっつけられる。
- ストローの太さを変えてみたら、シャボン玉の大きさも変わった。
- ストローの先を切って広げたら、大きく作れた。
- 勢いをつけて吹いたら、たくさん作れた。
- 液の付け方で数が変わった。

💡 次はどのような活動をしたいですか？

- 今度は、色々な道具を試してみたい。
- もっと大きなシャボン玉を作りたい。

学習シートの工夫

季節カード



1年を通して、季節やその移ろいに興味・関心をもつための手だて。

活動ごとの振り返りカード

しゃぼんだま ()

しょうずにできた	○ ○ △
だのしくでできた	
ながよくできた	
もっと○○したい	

児童が自分自身で思いをもって活動に取り組むための手だて。思いをもてない児童も、全体で共有する場を設定することで自身の思いをもつことができる。

実践【シャボン玉遊び】

第1時

【シャボン液をブクブク】



遊び方が固定化され、なかなか広がらない。

第3・4時

【教え合い】



【道具を替えてもっと大きく】



【穴をあけてみたら・・・】

【教え合い】



【手でもできるかな】



【どんなシャボン玉になるかな】

＜考察＞

「なつとなかよし」の単位では、アサガオ遊び、シャボン玉遊びにおいて、「体験する」→「気付く」→「考える・工夫する」の学習活動を繰り返した。始めは固定化されていた遊び方だったものが、振り返りカードを基に話し合うことで、自分たちで思いをもち、息の吹き方や道具の工夫、友達同士の交流によって実現していく主体的な姿を引き出すことができた。このように体験を繰り返すことで、活動の質、気付きの質が高まり、主体的に事象に関わる姿勢が育ち、1年を通して、季節や自然への興味・関心も高まっていくと考えられる。

第2時

【教え合い】



【道具の工夫】

【大きなシャボン玉に挑戦】



作戦会議を経て、「もっと大きなシャボン玉を作りたい」や、「たくさんのシャボン玉を作りたい」という思いを大切にすることで、息の吹き方を工夫したり、ストローの先を切って広げてみたりするなど、友達同士で教え合いながら、工夫し始めた。

第2時の終末で「他の道具も使ってみよう」や、「もっと大きなシャボン玉を作りたい」など、各自が思いをもち、それを実現するために、それぞれが道具や作り方を考えた。自身の思いが明確になることで、主体的に教え合ったり、道具を交換したりと、活動が活発になり、思いを実現することができた。